

2013年8月



花咲山

日 時：6月1日（土）

参加者：La 渡邊(俊) SLa 澤田(律) 足立(美) 澤田(卓) 砂川(美) 武田 田羅間(勤)
村上(敬)

Lb 和田 SLb 貝塚(文) 井上 狩集 山下 田羅間(易) 開 川上 西口

行動記録：播磨一宮一潤賀登山口 10:10～盤座～10:55～第一送信塔 11:25～花咲山山頂
12:00(12:25 発)～嵯峨山登山口 13:45

★ かわいい名前の花咲山って??



どんより曇った空模様、おまけにヒルがいるようで気持ちがヒルんでしまった。昨年6月芦生の森で、ヒルで大変な目に遭った事がよみがえった。

塩水（20%）、撃退スプレー（お取り寄せした人も）を足元・帽子・リュックに吹き付ける。渡邊リーダーは特に虫に好かれる（失礼！）と防虫網の衣服を頭からスッポリ。靴の周りには塩水を吸わせたストッキングを巻いて完全防備。被害にあった時の為のエタノールも持参してくださっていた。時折さす陽ざしに勇気付けられ、センターいちのみや登山口から登り始めた。

うっそうと茂る杉林の急登を、気持ちをそらそうと思いつつもやっぱり足下ばかりに目がいってしまう。前を歩くA班からキャーッと悲鳴！足下には2～3cmの茶色のヒルが――動くものは皆ヒルにみえてしまう。30分程歩くと大きな岩と磐座の社があった。ジメジメした杉林をぬけ尾根道に出た時はホッとした。やっと眼にした水田のバ

井上

ッチワーク、ゆったりと流れる揖保川の里山風景に心が和んだ。TV局送信塔を通り山頂に着いた。B班のリーダーに2匹、A班の虫に好かれた女性3匹、くっ付いてただけで血を吸われずに無事でした。

のどかな風景を眺め、おいしい弁当をほおぼっている頃には、ヒル騒動も笑い話になり盛り上がっていました。下りは杉林とうって変わって、身体まで緑に染まりそうな広葉樹林の林道。朴の木・ノイバラ・タニウツギーなど花木も多く、中でもエゴの木が沢山あった。白い可憐な花をいっぱいつけ、ほのかない匂いが漂っていました。厳重な獣除けの扉を通過して花咲山の山行は終了。温泉につかり心身共にリラックス！

花咲山のネーミングに魅かれて迷わず申し込んだのに――、かわいい名前はどこから付いたの？でも、山頂には桜の苗木が数本植えられていました。あの桜がきれいに咲く数年後”花咲山の桜を見たい”と、ヒル騒動を懐かしく思い出しながら、老体にムチうって登ってみたい――そんな素敵な山頂の光景を想像して――。

心配した雨も少しパラついた程度で、家まで辿り着きました。リーダーはじめ、ご一緒した皆さまと思い出がいっぱいできました。有難うございました。

九重山

日時：6月8日（金）～12日（火）

参加者：L上田 S L山本(正) 坂田(敬) 瀬尾 多木 藤原 三木(勉) 西口

行動記録：9日：長者原登山口 8:50～9:30→雨ヶ池 11:15～11:20→法華院温泉山荘 12:30

10日：法華院温泉 7:00→段原 8:45～9:00→大船山 9:25～9:28→段原 9:53～10:00
→大戸越 11:00～11:10→平治岳 11:50～11:55→大戸越 12:37→法華院温泉
14:00

11日：法華院温泉 7:50→すがもり越→長者原登山口 10:27

★ ミヤマキリシマ咲く九重山へ

6月9日 長者原から霧の坊ガツルへ

三木

「坊がつの讃歌」この歌は芹洋子が昭和52年、NHKの「みんなの歌」で歌った。

我々の年代の人は何度か聴きメロディーもかすかに記憶している人は多いと思う。

自分としてはこの歌を聴き、一度は行って四面山なる坊ガツルでミヤマキリシマが咲き誇っているのを見たかった。

6月8日、加古川17時52分の新快速で8名乗車、事前の天気予報ではまあまあとのことで大いに期待した。

往路のフェリーで神戸の夜景の美しさに感動した。山の上からの神戸の夜景も美しい

が海から見上げる夜景は宝石をちりばめたようだ。

翌朝、大分からタクシーで長者原登山口までかなりの風雨の中走る。3時間かけ登山口から法華院温泉山荘まで登る。雨で登山道はぬかるんでたいへんであった。

法華院山荘温泉で温泉に何回もつかり温泉三昧を味わう。明日は天気がいいように願う。



6月10日 ミヤマキリシマ咲く大船山、平治岳に登る

瀬尾

10日、小雨降る中、法華院温泉を出発し大船山（1,786m）を目指した。登山道は雨でぬかるみ、滑り易くかなり登りは辛かった。山頂はガスで何も見えない。登るにつれてピンク色の花が見えてきた。ミヤマキリシマだ。一面に咲いている。「きれいやなあ、頂上まで続いている。満開や」嬉しくて、写真を撮りあった。次に平治岳（1,642m）に登った。ここも美しかった。このあたりは国の天然記念物として管理され、景観が保たれているようだ。

法華院温泉に戻り、泥んこになった雨具を洗い、遅い昼食をとった。疲れたけれど、気分は最高の日となった。4時に気象通報を

聞き、天気図を書き、明日の行程を話合った。

私は今回、気象担当で、皆に晴れの予報を知らせた。山の天気の前想の難しさはあるが、もっと詳しく調べる必要があったと反省した。

三木さんのオカリナで、坊がつの讃歌を歌って楽しかったし、満開のミヤマキリシマを見られ

て満足の山行でした。上田リーダーをはじめ皆様、お世話になり有難うございました。





6月11日 雨と泥道に苦闘した山行

山本

今日は昨夜皆で決めた通り中岳、久住山を断念した諏蛾守越の下山道に行くこととする、かなりユックリと歩ける行程である、霧雨だが間断無く降る天気の中であれば、これも又良し、として法華温泉裏側の取付きより歩き始める、この道は広いのだが厳しい登りだ、地図で見ると谷に造られた砂防堰堤が途切れるまでが急登の様だ、これでも昨日の大船山方面よりドロが少ない分歩き易い、これをやり過ぎし岩場を越すと広い平地に出た。この荒涼とした処は北千里浜と呼ぶそうで、映画の撮影に使えるような山上の川原である。

久住山分岐から此方は右に登っていくと諏蛾守越に到達、ここには石造りの避難小屋がある。風雨がかなりきついのだが、この小屋は吹き曝しになっていて避難には余り適さないような構造だ。手前には鐘がぶら下がっておりこれを2～3度鳴らした。後日この鐘の由来を調べたら「愛の鐘」と呼ばれ“昭和37年正月。初日の出を見ようと入山した大分、福岡の2パーティーが猛吹雪の中北千里で※リング・ワンデリング状態になり、9人中7名が死亡、2名が凍傷という九重連山最大の事故となった。生き残った2名は、当時有人だったスガモリ小屋（今のスガモリ避難小屋）に辿り着き助かった。その後、このような事故が起こらないようにこの鐘が設置された。”とある。我々も強い風を少しだけ和らげてくれるこの避難小屋を後にして下りに差し掛かった、何処からともなく硫黄の臭いがしてくる、そう言えばこの付近に硫黄山があった筈だ。火山があつてこそ温泉も湧くのだと納得。この下りも岩場が多く歩きにくい所である。石には黄色のペンキで大きく書かれた道案内が沢山あつて迷うことはない。大きな事故があつたから、霧が出てリング・ワンデリングに陥るのを防ぐためにされたのか、普段私達が行く山でこれ程道標に手間を掛けてある山は余り見かけない。

このガレ場を下りきると林道に出た。僅かに霧が薄れて三俣山の稜線が見える。よく考えるとここに来てから3日目になるが山の姿は殆ど見ていない、雨も霧雨程度だが間断なくふり、風も時折吹く程度だが、霧、雲は全く切れることなく山、平原を覆っている。まるで我々に山を見せてはいけないように。

昨日はミヤマキリシマを充分見せて貰ったから満足な筈ではあるが、密かに九



重独特の山全体緑に包まれた柔かい雰囲気山の山容を見るのも一つの楽しみにしていただけに残念だ。この林道から再び山道に入るが、ここからが、又昨日同様泥道だ。泥は昨日よりは少ないものの、昨日は滑りそうな道でも木の枝を掴んでスリッパを防げたが、今日は道脇には草しか生えて無くて掴む所がないのだ。転けたら泥で真っ黒になるのは必至だから、充分注意して歩いたものの転んでしまった。そうこうしながら全員無事に予定下山時刻より早く長者原に着く。ビジターセンターで雨具、靴の泥を払い濡れた衣類を片付けて昼食を摂る。タクシー14時にはまだ少々時間がありセンターでビデオを見たりに買い物をしたりして時間を過ごす。皮肉にも帰る刻限になるほど天候は回復傾向だ。タクシーはサービスよく「九重夢大吊橋」に寄ってくれたり、湯布院の町中を走ってくれたりした後、大分港に着いた。此処まで来ると道路は完全に乾いている皮肉なものだ。めいめい乗船までに夕食を摂り、乗船するや船の風呂に飛び込んで雨と汗に濡れた体を洗い流し生き返る。帰りの船も18名の部屋を8名で貸切状態だ。久し振りに乗った船もノンビリ出来ていいもんだと思いつつ船中での就寝についた。翌朝神戸に着いたら無惨にも快晴、何と言うことだ！

後記1：少し気になったこと

花で人気の山だけに大勢の人が詰めかけるが、中には雨具がポンチョだったり、靴がズックの人も見かける、しかも単独だ。少しは心得のある人だとそう言うことはしないと思うが、無くてやっているのだと多分怖い。花を愛でる為の山行と登山を楽しむ山行と考え方の相違はあるが転倒、滑落事故の要素は少しでも減らして山行に望むべきだ。

後記2：泥道は苦手

帰宅後15日(土)に那岐山に出かけたが、この日もタイミング良く雨、雨。しかし九重の様な泥は無いから、歩くには全く気を遣わずに楽に歩ける。九重でどれだけ神経を使って歩いたかが改めて認識できた。次回当方面への山行を計画する際は装備に「軽アイゼン」を入れて下さい。

※リング・ワンデリング(輪形彷徨)：人が方向感覚を失い、無意識の内に円を描くように同一地点を彷徨い歩く事を言う。

伊吹山

日 時：6月9日(日)

参加者：L本多 SL澤田(律) 川上 尾内 北口 狩集 田口(末) 田口(善) 増田
平井 村上(敬) 山下 大石

行動記録： 姫路駅 6:25—加古川 6:35—明石 6:49—米原 8:56(乗換 9:14 発)—近江長岡 9:45
伊吹山登山口 10:01(10:20 発)~3 合目 11:20-11:35~5 合目 11:53-11:58~
伊吹山山頂 13:30-14:33~5 合目 15:40-15:50~3 合目 16:05-16:12~登山口 17:10-
17:15—JR 近江長岡駅 17:35

★ あきらめなければ何とかなるサ

感想文の依頼を受けたが、ただ「しんどかった」の言葉で紙面をうめたい気持ちです。

山遊会に入会したばかりの私は、当日まで



遠足気分です準備して朝早くJRでお出かけ。無知という恐ろしさを知ったのは駅から登山口までのバスから伊吹山を見上げた時でした。エ〜〜〜〜！あの山に登るんや。一気に不安でドキドキ、皆さんについて一歩ずつ登る。エッ、ウソやと一合目なんや、まだ三合目なんや、もうアカン無理だ、限界だ。ここで待っています。残して登って下さいと言ったら皆さんに大丈夫や頑張ろう！と励まされて、リーダーの後に必死でつ

川上

いて足を前へ運ぶ。五合目の休憩。もうここまで来たらほとんどヤケッパチ。そしてついに山頂、一等三角点に手をふれる事が出来た。

360度見渡す山々の景色、本当にうれしかった。1, 377m登頂記念バッチを買った。ここで夕陽を見て眠れたらいいなあなんてバカな事を思いながら下山する。ストックについて時々ズルッとすべりながら、また、下界を見下ろしながらリーダーについて行く。ヒザ、つま先がガクガク。こんな所よく登ったもんだと感心。お花畑はまだ少し早かったみたいでしたが緑の中に小さな花が可愛かったです。帰りのバスの車窓から見上げる伊吹山は素晴らしかった。ありがとう。こんな体験をさせて頂けて本当に先輩達に感謝です。ありがとうございました。あきらめなければなんとかなるサ。

那岐山

日 時：6月15日（土）

参加者：L：山本 SL：西村 内海 苦瓜 開 田中(美) 宮崎 村上(敬) 村上(節) 香川

コース：宝殿 7:30→那岐山第三[㊦]9:55～大神岩 11:00～滝山分岐避難小屋 11:55（昼食）12:30
～那岐山ピーク 12:42～AB コース分岐 13:02～駐車場 14:40

★ 雨天山行もまた楽しい（ドウダンツツジ咲く那岐山）

村上

梅雨入り発表以降日本列島はカラカラの日照り続き。さぞかし猛暑のなかでの山行になるだろうと熱中症対策を念頭に準備をした。しかし、台風の発生で天候は一転して、JR宝殿駅を出発して間もなくフロントガラスが濡れはじめ、高速道路に入ると雨足も強くなり、雨のなかでの山行へと気持ちを切り替えていった。男2：女8人のパーティは3台の車に分乗。村上さん宮崎さんと一緒に内海さんの車に乗せていただいた。「この雨では出発から合羽着用やね、サウナ状態か…」「ダイエットにいいかも」等々会話も弾み、2時間程で那岐山の麓に到着した。

“山で遊び、山を楽しむ”をコンセプトとしている高御位山遊会メンバーの、持ち前の明るさと山に向かうモチベーションがひとつになり、第三駐車場で手際良く雨具を着用し、リーダーを先頭に9時52分登山口を出発した。行程はCコースを登りBコースを下る予定だが、雄大な眺望は雨雲に隠されている。でも美しいさえずりで鶯さんが迎えてくれている。雨も程々の降りですぐに風は吹いていない。登り始めてすぐに葉が一部白化した“マタタビノキ”を見つけた。ヤマボウシ、エゴノキ、ウツギ、コガクウツギ、白いシモツケなど季節柄白い花が多くみられ、山アジサイも蕾が膨らみかけている。タニウツギは上品なピンク色で彩りを添え、笹に隠れるようにレンゲツツジも咲いている。足もとに目をやればギンリョウソウが密やかに咲き「よーおいでんさった」と私達を歓迎してくれている。真っ赤に熟した草いちごや黄色い木いちごを味わいながら、みんな一緒に歩を進め、ひのきの国有林を抜け雑木林へと

樹間がひらけた登山道に、サラサドウダンの花がびっしり！… 歓声をあげ見上げると4～5m程もある大きな木が四方に枝を伸ばし更紗模様の花を咲かせている。ふくよかな花びらの絨毯をそっと踏みしめて進み、九十九折りを登って行くと、コップが用意された水場があり、一服の清涼水で喉を潤し登って行くと少し直登になり、結構登って来たなと思っていたら、標高1,000mの大神岩に到着した。ザックを降ろし小休止。好天なら岩に上がると日本原高原が眼下に広がり備前の山々まで見渡せるそうだ。ホトトギスが鳴いていた。

山頂へ1.1kmの道標を過ぎた辺りにコケモモ



に似た小さな釣鐘形のアカモノ(イワハゼ)を見つけた。花は淡いピンクで萼は鮮やかな赤色。赤い実は甘くて食用になる。もう少し鑑賞したかったが別行動も出来ず残念と思っていたら、「ワーこれ虫？」という声でよく観察してみると「これ笹の花よ、よく見つけたね、60年に一度咲く花ヨ」めったに咲かないが、咲くときは群落全体が咲き、結実後枯死するという。奈良葛城山の麓、御所市に住む友人が「葛城山は笹が生い茂る山だったが、花が咲き、実がなりそして枯れて、地中に眠って

いたつつじとバトンタッチし、あのような美しいつつじの山になったのよ。」と言っていたことを思い出した。『那岐山はどんな山に変身するのかな?』1人で想像に耽っていたら急に視界がひらけ三等三角点のある頂上に到着。立派な屋根が付いた見晴らし小屋で雨宿りしながら昼食タイム。汗と雨でぐしょぐしょ状態でも皆で食する食事は楽しい。

三角点(1,240.3m)から西に笹原の尾根を15分程歩くと最高所(1,250m)

の頂上に着く。頂上で記念写真を撮り、Aコースの分岐を目指したが、鈴なりの花をつけたサラサドウダン、ナナカマド、タニウツギ、レンゲツツジなど、今を盛りと咲き誇る天空のフラワーロードを、こだまするカッコーの鳴き声をBGMに、心満たされ下って行った。分岐からは黒滝より流れる爽やかな水音に導かれながら会話も弾み、軽やかな足取りで駐車場に到着した。

高島トレイル

日時：6月16日(日)

参加者：La 尾越 SLa 尾内 大谷 岡本 垣内 狩集 河合 木村 瀧原 西口
Lb 和田 SLb 長谷川(易) 田口(末) 田口(善) 武田 中嶋 中村 藤田
村上(敬) 苦瓜

行動記録：山電高砂駅 6:20—JR 宝殿駅 6:35—国境高原スノーパーク 9:40(10:00 発)～乗鞍岳北尾根 11:10～乗鞍岳(昼食) 11:55(12:20 発)～芦原岳 13:30(13:40 発)～猿ヶ馬場 14:10～黒河峠 14:50(15:10 発)～林道ゲート 15:40—JR 宝殿駅 19:10—高砂駅 19:30

★ 高島トレイル山行

当日は早朝6:30に宝殿駅を出発。バスに乗ること3時間半。国境スキー場で下車。ストレッチの後、いきなり勾配の急なスキ



一場を登る。スキー場から木立に入ってもしばらく勾配は続きました。この日は早朝の出発で少々寝不足な上、いきなり急な上り坂で、“これから約5時間の山行がはたしてできるかしら”と心配しながら歩きました。

辺りにブナ林があらわれた頃から、おだやかな縦走路になり心地よい風に汗もすつと

木村

ひき、周りを見る余裕もでてきました。乗鞍岳北尾根を経て、乗鞍岳に約2時間で到着。そして昼食。さらに進むと琵琶湖、そして竹生島が見えました。そして電波塔のある広大な広場からは琵琶湖、そして白い花をいっぱいつけたやまぼうしの木々や赤い花をつけた山つつじが山を彩り、とてもきれいでした。

しばらく行くと琵琶湖、そして振り返ると敦賀湾も見え感激！まだまだ続く高島トレイルですが、今回は黒河峠でマキノ林道を経て下山しました。この続きは秋に山行予定と聞きました。当初、勾配の急な縦走路でしたが後は比較的、平坦なところも多く、この日は日差しも柔らかく、楽しい山行になりました。資料収集してくださったリーダー、そして皆さんお世話になりました。

初めての山歩き教室 実技・高御位山

日 時：6月30日（日）

教習生：16名

サポート：上田、石田、香川、北口、砂川（延）、佐々木、平井、田口（末）、田口（善）、
小山、中村、西口、尾越、峯山、村上（敬）、須増、切貫、澤田（卓）、澤田（律）
大石、大谷、高嶋、塩津、渡邊（俊）

行動記録：みどりの相談所 9:00-9:20～馬の背ピーク 10:00-10:10～百間岩手前鉄塔 10:35
-45～地徳山 11:15-11:20～大平山手前尾根 11:45-11:50-阿弥陀墓苑 12:
05-12:15 ストレッチ 12:20-みどりの相談所前 12:50

★初めて馬の背から登った「高御位山」

「初めての山歩き教室」の実技で「高御位山」山行に参加しました。

過去に何度も「高御位山」に山行していても、なぜか馬の背から登った事はありませんでした。常々「馬の背」を歩きたいと思っていましたので、念願叶って嬉しい山行になりました。

9時に集合して、何時も通りストレッチをしました。飛び入り参加者もあり、かなりの大人数で2班に分かれて元気よく出発しました。

楽しみにしていた「馬の背」思いの外、軽快に登る事が出来たように感じました。その後、縦走路に合流しました。

私は、以前から登りは良いのですが、百間岩のような岩場を下りるのに少々苦手意識があります。今年の新春トレに参加した時感想文の任務が当たり、「バランス感覚と、平衡感覚の強化が私の課題だと感じています。」と書いたのですが、皆さんからの助言

西口

を頂きこの頃ようやくスムーズに下りられるようになって来たと思うようになりました。

今回の山行はお天気も良かったので眺望も開け、時折吹く風も涼しくて良かったのですが、私達の班は「みどりの相談所」まで戻って来ると4時間程掛かっていました。私は何時もよりも疲労感一杯でした。

この時期の山行は暑さとの闘いの山行だと改めて実感しました。

6月例会後の清掃山行時には、ピンク色のササユリが咲いていて、楽しみながら山行が出来たのですが今回は咲いている花々を観ることも無く、少々寂しい山行でした。

休憩した時に、参加者の方から頂いた「びわ」が甘酸っぱくてとても美味しかったです。ご馳走様でした。

今回の山行は私達、「三の峰」山行参加者にとって、良いウォーミングアップに繋がったと感じています。

石金山・イタリ山

日 時：7月4日（木）

参加者：La 和田 SLa 苦瓜 赤松 木村 澤田(卓) 田羅間(勤) 舛賀 増田
Lb 澤田(律) SLb 瀧原 田羅間(易) 三木(勉) 宮崎 村上(敬) 渡邊(俊)

行動記録：山電高砂駅 7:45- JR宝殿駅 8:00-道の駅 山南二王駐車場 9:35 着 {10:30 発}
～至山 11:30 着 (11:40 発) ～308m ピーク 12:30 (昼食 12:50 発)
～田高坂峠 14:00 (14:05 発) ～小新屋への分岐 15:00～石金山 15:20 (15:30 発)
～小新屋観音 16:20 (16:50 発) - 葉草公園 丹波の湯 17:00 (18:10 発)
- JR宝殿駅 19:40-山電高砂駅

★ 雨のイタリ山・石金山・山行

前日からの雨で未熟な私は10%程度の中止と思いつつ集合場所へと向かいました。3台の車(分乗)と現地集合車1台が山南仁王駐車場に集まりました。

雨は一向に降り止まず早々に雨具をつけ、15名がリーダーの下2班に分かれ、予定より少し遅れた10時30分に出発しました。いきなり急な坂道を登りイタリ山(至山)に。それから雨の中ひたすら展望の利かない尾根道を歩き進むこと1時間半、昼食は無理なのか?と思ったとき雨も小休止。田高坂峠付近で食事に。

また雨が降り始め出発です。かなり急な天狗岩の鎖場をリーダーの指導の下ゆっくり登りました。岩のくぼみを持つての登り方、足の進め方など初めての技術?も身をもって体得しました。(本当は少し怖かったです...)降りしきる雨の中、石金山が近くなると雷も鳴り、

小富士山~仁寿山

日 時: 7月6日(土)

参加者: L上田 SL多木 池尻 上川 内海 香川 狩集 北口 北村 嶋澤 高嶋
田口(末) 田口(善) 田中(美) 苦瓜 西口 平石 村上(敬)

行動記録: 姫路市埋蔵文化センター10:15→四郷小登山口 10:30→あずまや 10:50~11:00→小富士山頂上 11:05~11:15→仁寿山頂上 12:10~12:45→四郷中登山口 13:35→埋蔵文化センター13:50 解散

★ 小富士山~仁寿山ハイキング

JR御着駅9時30分、姫路市埋蔵文化センター10時にそれぞれ集合し、合計18名で出発しました。埋蔵文化センター前でストレッチを済ませ、その後15分ほど歩いた四郷小学校わきの登山口から10時30分登山スタート。途中ぎっしり赤い実を付けたヤマモモを見つけ、よく熟れていそうな実を1つ2つ食べてみたところ、甘酸っぱい味

赤松

かなり過酷な状態の中、頂上に着きました。この時ばかりは南方下に民家も見られ、写真を撮す事もでき幸せな気持ちになりました。さあ、次は下山です。

分岐点まで戻り、ひたすら急な石道を下りました。4時30分頃小新屋観音近くの下って来た時は雨具をつけていたにもかかわらず、全身ずぶ濡れ状態でした。薬草公園、丹波の湯で疲れを落とし無事に山行が終了しました。

止む事のない雨、雲海の中でかなり過酷な山行は私にとってちょっぴり自信になりました。皆さん有り難うございました。



うえかわ 上川

がしてとてもおいしかったです。山頂手前で一度休憩をとり出発してから約40分で小富士山(173m)山頂に到着しました。山頂には古いお寺があり広い境内を通り抜けて南側の播磨灘を見渡せる岩場の絶景ポイントまで行ってそこで暫く景色を眺めながら休憩。右前方には次に向かうアンテナ塔がたくさん立っている仁寿山も見えました。

小富士山の西側から下って仁寿山へ。仁寿山(175m)はそれほど高い山ではないが、頂上までほぼ一直線の急勾配を登っていくので意外とハードでした。山頂にはNHKや関電のアンテナ塔が立ち並んでいて、少し歩いた南側の斜面に風の通る場所がありそこで昼食。眼下に姫路バイパスと町並み、遠くに瀬戸内の島々が見えました。蒸し暑い日だったので、昼食の際にリーダーさんから頂いたアイスはうれしかったです。

帰りは車道の中腹まで下り、そこから小富士山の途中まで来た道に戻り北側に抜け、暫く歩いたところに姫路市街が見渡せ



るポイントがありそこで集合写真を撮りました。そこから15分ほどで四郷中学校の裏に下山して、歩いて埋蔵文化財センターに14時に戻り解散。お天気に恵まれた楽しい一日でした。皆さま有難うございました。

今回集合場所となった姫路市埋蔵文化財センターは私自身初めて耳にした場所ですが、パンフレットによると姫路市内には旧石器時代から江戸時代まで約1200カ所の遺跡が存在していて、発掘調査で出土した資料を整理・分析・復元・展示している施設だそうです。今回は時間の都合で館内見学せずに帰りましたが、入館無料ですので機会があれば見学に行きたいと思っています。

夏山4コーストレ 六甲地獄谷

日時：7月6日(土)

参加者：L須増 SL尾越 大谷 河合 佐々木 瀬尾 中村 砂川(延)

行動記録：阪急芦屋川駅 8:00～高座の滝 8:30～広場(ストレッチ) 8:50～地獄谷～9:45(休憩)
～Aケン 10:30～ピラーロック(昼食) 11:00～11:30～風吹き岩 11:40～保久良神社
(ストレッチ) 12:20～12:30～阪急岡本駅 13:00

★ 初めての芦屋地獄谷

六甲山は、有馬三山とロックガーデンの2コースしか歩いたことがない私は、「地獄谷のコースを行く」といわれても、アリ地獄のような荒涼とした山道しかイメージできませんでした。

高座の滝を通り過ぎ、沢に下りた広場でストレッチを済ませ、出発の準備をしていると、谷川の手前でアイゼンをつけているグループがありました。そのグループは、なんと！水が流れ落ちている谷川を登っていったのです。ごっついとこ登って行くんやなあ…と感心して眺めていました。

ところが、会長が前のアイゼンをつけたグループと同じコースを登り始めるのです。まさか…他人事に思っていたのが、一瞬のうちに、私は真顔モードになっていました。河合さんから、「水が

中村

あるところを避けて、登って行くんや。」と、教えられていた私はてっきり、「巻き道を歩く」と勝手に解釈していたのです。



鯉が滝登りするが如く、鯉のようになやかにはいかないけれど、いくつかの滝をよじ登っていきます。岩のでっぱり指を掛け、足場を見極め、

滑らないよう、落ちこまないよう登っていく。ただそれだけの事だけど、日頃、こんなに気を集中するのは、針に糸を通す時くらいのこと。(最近手元が見えにくくなり、老眼鏡を用いている)危険度の高いらしい滝は、会長が張ったロープにシュリングを巻き進んでいく。私たちを追い越していくどのグループもそうですが、リーダーから最後のメンバー1人がクリアするまでしっかりと見守られていました。メンバー全員が1つの同じ方向にあるのを実感でき、これまで、多く単独で気ままに行動していた私は、集団で歩くのもいいなと思いました。

風吹岩まで登り詰め、一気に阪急沿線までた

武庫川清掃ハイク

日 時：6月2日

参加者：L:須増 大谷

★ 清掃ハイクに参加して

兵庫県連主催の2013年6月／環境月間行事「武庫川清掃&ゴミ一掃運動」が今年も6月の第一日曜日に開催されました。高御位山遊会からも2名が参加しました。今年は、JR西宮名塩駅からJR武田尾駅までの区間を清掃や草刈りをしながら歩いた。そして、長尾山第一トンネル北側の土砂が流れたところまで補充用の土砂を運び補充を行った。

高御位山遊会の『高御位山清掃ハイク』と『武庫川清掃&ゴミ一掃運動』は、統一の日で開催されている。そして、この『兵庫の山からゴミを一掃する運動』は、全国で開催の清掃ハイクにつながっているのである。

登山時報7月号にも「武庫川溪谷の廃線跡トンネル群を開放・保存し、自然公園に」というタイトルで甲山芳山 桐藤 直人氏が詳細に報告されていました。

この武庫川溪谷の廃線跡は、武田尾周辺に

どり着いたところ、橋の上から河川敷を窺う人ばかり。何かと思ったら、会長よりふた周りくらいでかいイノシシが死んだように昼寝をしていました。おしゃれな神戸の街並みで、人間からカメラを向けられ、昼真っからリラックスしているイノシシ。一瞬、納山会のぼたん鍋が脳裏をよぎり、丹波篠山に生まれなくてよかったね…とつぶやいてしまいました。

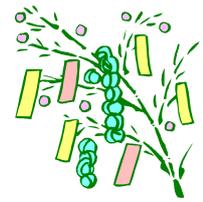
今回の夏山集中山行トレーニングの目標になっていた「メンバーシップを養う」については、一歩前進できたかなと思います。本番もよろしく願いいたします。

2012年度、自然保護担当：須増

あって、春の桜シーズンと秋の紅葉シーズンには、素晴らしい景観を見せてくれます。モンベルでもこの廃線跡をハイキングコースとしてツアー企画しているようです。我々も今後、安心して歩けるコースとしてハイキング道の維持・保全活動に継続的な参加をしていきたいと思います。何事も続けることが大切です。出来れば、今年の秋にでも『武庫川ウオーク』を会の山行として企画したいと考えています。この有名な廃線跡をまだ、ご存知ない方は、現状を知るために一度歩いてみましょう。



2013年7月



宍粟50山 高峰～千町ヶ峰

日時：5月5日(日)～6日(月)

参加者：L上田 大石 澤田(律) 嶋澤 三木(勉) 渡邊 尾内(6日 日帰り)

行動記録：5日：JR宝殿駅8:00—イオン別所店9:00—JAサンパテオ11:05～前川登山口11:10
～NHKアンテナ12:10(12:35発)～高峰山頂14:00(14:20発)～NHKアンテナ15:00
(15:05発)～前川登山口15:55～JAサンパテオ16:00—千町小屋16:20(泊)

6日：千町小屋9:00—こぶしの村P9:20 登山口9:45～林道分岐10:15(10:20発)
～炭焼窯跡10:25～山頂手前11:15(11:25発)～弘法の池11:45(11:50発)～
千町ヶ峰山頂12:00(12:55発)～林道分岐13:50～こぶしの村P14:15—
まほろばの湯14:40(15:40発)—山崎千年藤16:30(16:50解散)

★ 高峰、千町小屋に泊まって

GWに宍粟50名山に行くのは、一年ぶりです。昨年は、小雨の中のトレッキングでしたが、今年は晴天に恵まれて嬉しいかぎりです。

8時に宝殿駅集合し、大塩経由で姫路別所にて食糧調達し、一路山崎へ向かいました。

JAみたかサンパティオに駐車し、11時ようやくスタートです。最初はつづら折れの林道を進むのですが、なかなか手ごわいです。するとMさんが楡の木を見つけて「にれのこかげで・・・♪」と歌い始めました。なんと、ナツメロ高校三年生♪です。一緒に口ずさみながら、和やかに歩きました。

やっとNHKの電波塔で、昼食となりました。その後がおかしいのです。また電波塔があります。これこそがNHKの電波塔です。ではさっきは何だったのでしょうか？まあ道は間違っていないから前進です。

遠くの山にピンク色の木を見つけて、桜がまだ残っているね。つつじの色の鮮やかさに感動して、ようやく宍粟50名山の34番目高峰に登頂できました。844、6mです。万歳！

下山は、道の枯れ葉がすべりそうでこわかったです。例の電波塔へ下り、よく確認する

大石

と携帯電話の電波塔でした。思い込みは怖ろしいですね。

スタート地に戻って、千町小屋へ。この小屋は山の奥にあるのですが、昔牧場だったそうで、周りは開けています。30人以上は泊まれる素敵なホールの小屋です。夕食は豚鍋、鍋で炊いた炊き込みご飯もうまくなりました。(電気量が少ないので、炊飯器が使えません。)お酒もいただいたところで、Mさんのオカリナ

&ケーナの演奏会の始まりです。

私は初めて聞かせてもらいます。

上手！素晴

らしいです！歌詞カードも用意してください、皆で楽しんで、薪ストーブの心地よさも加わり、とても楽しい愉快的な夜を過ごすことができました。

2日間運転してくださったSさん、ありがとうございました。来年は、山菜のてんぷらをメニューに加えましょうね、Uさん！皆さん、ご一緒しませんか？



★ 千町ヶ峰に登る

2日続きで好天に恵まれた山行であった。昨夜は11時頃まで、薪ストーブを前に酒を酌み交わし、山の歌を歌った。山ならではのひと時であった。

4時頃目が覚めると、ストーブの火は消えていた。気温はさほど低くなかったので、ストーブはそのままにして、また寝る。朝、起きると雲一つない上天気。小鳥の鳴き声が聞こえ、この上もないロケーションである。

朝食を済まし千町ヶ峰、高度1,143mに登る。途中、こぶしの村、炭焼き小屋あと、

三木(勉)

弘法の池をめぐり山頂に着き昼食である。握り飯、カップラーメン、ぜんざいと山の上ではたいへん美味しかった。昨夜の夕食、今朝の朝食そして昼飯とたいへん美味しく作っていただいた女性陣に感謝。いい山行でした。



ダイヤモンド・トレイル

日時：5月5日(日)～6日(月)

参加者：A班 L 瀧原 SL 田羅間(易) 垣内 坂田 砂川(美) 田羅間(勤) 時井 苦瓜 西口
B班 CL 砂川(延) L 小山 SL 青山 阿江 大谷 河村 塩津 村上(敬)

行動記録：5月5日 JR加古川駅(8:20 発) → 當麻寺 10:20(10:35 発)～ 二上山(雌岳)11:50
(12:15 発)～岩橋山 14:45(14:52 発)～ 葛城高原ロッジ(泊)17:50

5月6日 葛城高原ロッジ(6:00 発)～ カヤンボ(記録無し)～金剛山(一の鳥居)10:00
(10:10 発)～久留野峠 11:35(11:40 発)～千早峠 12:35(12:55 発)～
杉尾峠 13:55(14:00 発)～紀見峠 15:40(16:05 発)→ JR加古川駅 20:40

★ ダイヤモンド・トレイルは六甲山全縦コースよりも歩き辛い？

小山

今年1月、2回目の12期生学習山行会候補地として「ダイヤモンド・トレイル」を希望した。見つけた本には手軽に縦走、山上には宿泊施設も充実とある。およそ30km強の山道を特に何も考えずに提案した。あの時はとにかく憧れの大和葛城山、金剛山に行きたい！それだけだった。3月、「ダイヤモンド・トレイル」に本決まりとなる。なぜかミーティングの提案者=Lということになった。宿泊施設も「葛城高原ロッジ」を押さえた。計画書の作り方がわからず、今回予定があって参加されない、野村さんに泣きついた。やさしい野村さんはすぐに計画書、装備表、地図まで用意して下さった。4月の参加者ミーティングまでに計画書の仕上げをするように言われ、用意していただいた計画書と格

闘した。1日目、大和葛城山まで約6時間、2日目、葛城山から金剛山を抜け、紀見峠まで約9時間。地図を見ながら検証すると、何とも無謀な計画である。果たして最後まで歩けるのか？大阪府山岳連盟が「チャレンジ登山」として「六甲山全山縦走」と同じような大会をしているのをコロッと忘れていた。ここはもしかして「全縦」と同じ、苦しいだけの道のりかもしれない。大変なところを提案してしまった。

1日目、先頭で歩く。今回は當麻寺から出発する。いきなり、どちらの方向に向かって歩けばいいのかわからない。とりあえず、それらしい格好の人達について歩く。「二上山登山口」と書いてあるのを見つけた。ひと安心。これでやっとスタートだ。二上山雌岳を

目指して急な登りが続く。途中、後ろのA班が突然付いてこなくなった。上から見ていても何もわからず、私はオロオロするばかり。やっと動き出したが、A班メンバーの体調不良が分かったのはずっとあとのことだった。

地図をずっと見ながら歩いていたが、あと10分はかかると思っていた「馬ノ背」が突然現れた。ここでトイレと昼休憩。先を急ぐ。岩屋峠、竹内峠、平石峠、岩橋山、アップダウンが続く。普通の山道なら耐えられるが、ほとんどが丸太階段。見るたび、嫌になる。最後大和葛城山まで、ひたすら丸太階段だった。「葛城高原ロッジまであと3分」この看板を見つけた時はうれしかった。生き返った気がした。やっとこの丸太階段から解放される！！ロッジの夜の会席料理は見事だった。「山の上でこんなに美味しい食事が食べられるの？」皆さんにも好評だった。

2日目、私達B班はA班の後ろで歩く。今日歩く距離を考え、6時すぎに出発。葛城山のつつじの咲いていない園庭を真っ赤なつつじを想像しながら歩く。金剛山に向けて急

な下りが続く。林道を越えると今度は急な上り、大嫌いな丸太階段が続く。水越峠、カヤンボを通過し、1時間ほど行くとようやく金剛山の一の鳥居が。金剛山頂上へは行かずにちはや園地へ。しばしの休息。伏見峠、久留野峠。また急な丸太階段が続く。中葛城山手前からなだらかな道。高谷山を越えるとゆるやかなアップダウンが続く。千早峠、神福山、行者杉、杉尾峠、タンボ山、西ノ行者、山ノ神から終点の紀見峠。2日目は思っていたより、歩きやすく、ラクだった。

初めてLとして先頭を歩かせていただいた。Lをさせていただいて感じたことですが、とにかく後ろとの間隔を空けないというのが大変でした。今まで地図を見ながら歩いた経験も無く、自分が必死でついていくだけの山行しか経験が無いので、はたして最後まで歩ききれるのか不安でしたが、Lというのはしんどくなれば自分でペースを落として歩くことができるという特権を発見。1日目最後の大和葛城山頂上付近では思いっきりゆっくり登りました。

12期生の皆様、そしてLの1人が小山だと知らずに参加して下さった12期生以外の方々、いろいろをご迷惑おかけしました。ホントLは大変です。今回たくさん勉強させていただきました。次回の山行からはちゃんとした地図を持ち、何処を歩いているのか把握できる自立した登山者になれるよう努力したいと思っています。

一緒に歩いて下さった皆様、本当にありがとうございました。



武奈ヶ岳

日 時：5月11日(土)

参加者：L 須増 SL 尾内 瀬尾 苦瓜 山本(喬) 嶋澤 大谷 舂賀

L 西村 SL 佐々木 岡本 狩集 村上(敬) 山本(敏) 西口 河合

行動記録：宝殿駅 6:50—ガリバー青少年旅行村 9:40 (10:00 発)～八淵滝 (大摺鉢) 10:50 (11:00 発)～アシウスギの大樹 11:30 (12:00 発)～広谷 12:30～武奈ヶ岳 13:50 (14:10 発)～細川越 14:20～広谷 14:50 (14:55 発)～八淵滝 (大摺鉢) 16:00 (16:05 発)～ガリバー青少年旅行村 16:32 (16:55 発)

★ 2013年5月11日（土）雨 武奈ヶ岳山行

岡本

予報どおりのあいにくの雨。合羽を着込み体操してガリバー青少年旅行村を出発。しばらくすると川にぶちあたり、クサリの張られた川をおそるおそる渡りました。みんな、無事通過。先に進みます。広谷で写真を取り、イブルキのコバをすぎてもなかなか雨がやみません。今日は一日雨だなと覚悟をしました。あと30分歩いたらご飯にしましょうという須増Lの言葉でもうひとふんばり。そうこうするうちにまだまだ先だと思っていた武奈ヶ岳の頂上に出ました。やったー！！遠くは見えませんが、360度見晴らしはいい。山々が雲海で覆われていてとても幻想的な感じだ。雨でもこんなすごい景色が見られるんですね。みんなで記念写真をとりました。

下山は大変でした。滑るはこけるは・・・。なんとか下りてきたのですが、川で浮石を踏んでしまいしっかり川の中でこけてしまいました。SLの佐々木さんに、随分ご迷惑をかけてしまいました。本当すいませんでした。やってしまったと思ったのも束の間、次の難所のクサリのはられた川でもしっかり滑って川に膝上まで入りました。靴の中に浸水！！はずかしい！！須増Lに「クサリにたよりす

ぎ」と注意を頂く。学習！濡れるぐらいいいけど、みなさんに迷惑をかけないように気をつけなくてはと思いました。なんとか無事



下山し、体操して山行後のお風呂をみんなで満喫しました。最高！

帰りのバスの中で舛賀さんが、須増リーダーに「雨でいろいろ気苦労があったやろうけど、今日きてよかったで、ありがとう」という言葉をかけておられました。聞いていてとっても幸せな気持ちになりました。

雨で川にはまりもしたせいか忘れられない、わいわいがやがや楽しんで、久しぶりの山行はいい山行でした！！皆さん本当にありがとうございました。

大倉山

日時：5月14日（火）

参加者：L澤田(律) SL舛賀 赤松 狩集 澤田(卓) 苦瓜 野村 宮崎 村上(敬)

行動記録：井関三神社 9:00(9:20 発)～鉄塔 9:52(9:57 発)～西の峠池 10:30～サウンドスコープ 10:35(10:40 発)～大倉山山頂 11:10～展望台 11:20～大成池 11:40(昼食 12:15 発)～新池 12:30～標識のある分枝 12:45～さんのぼし 13:13(13:18 発)～井関三神社 14:00 (ストレッチ 14:10 発)

★ 大倉山って・・・

赤松

「たつの市の最高峰を歩く」と案内を見て、少し不安な気持ちで井関三神社に集合しました（二台の車で分乗）。

リーダーから前もって蛭に備えた服装や防蛭スプレーを準備するなど、少し怖い連絡を受けていたので、皆は完全な装備をしてスタートしました。

登りは私にとっても、とても不安な時間ですが、リーダーの優しさと適切な



指導で何とか無事に過ごせました。途中、たつのならではのベルで赤とんぼのメロディを奏で、音はずれるのも愛嬌でしばし童心に返りました。又、なだらかな道を登るともうすぐ頂上と言う声が聞こえてきました。私の中では山頂って疲れた目に飛び込んで来る高い所というイメージがあったのですが・・・。大倉山山頂は周りを木々に囲まれた狭いスペースでした。ここではちょ

っと休憩も出来ないと言う事になり、展望台へ移動しました。ここからは五月晴れの雲一つない新緑の間に、たつの市かな？と思われる集落が視界に入り、さわやかな風に幸福を感じた休憩タイムでした。これからは私の好きな下りになると聞き、昼食場所への歩行開始です。食事は大成山国有林に囲まれた大成池のほとりの屋根付きベンチでした。池がとてもきれいなエメラルドグリーンで安らぎの時間が持てました。下り途中に見たもう一

つの池（新池）も上手に芝生が植えてあり、きれいな水、時々見え隠れする魚、薫風、とても穏やかな幸せな、暑かったであろう下界からは考えられない幸せな空間でした。

下る事、1時間半スタート地点の井関三神社に帰ってきました。心配していた蛭にも合わずとても楽しい一日が過ごせた事、メンバーの皆様ありがとうございました。

私の反省として自信を持って参加出来る様にいろいろ学ぶ事の多い一日でした。

大船山（女性委員会主催）

日 時：5月18日（土）

参加者：L西村 SL澤田（律） 青山 尾内 坂田 瀬尾 西口 藤原 松尾

行動記録：大磯登山口 10:20～峠 10:50～大船山山頂 11:40（13:05 発）～大磯登山口 14:00～大舟寺 14:30（14:45 発）～各地

★ 大船山大舟寺

自家用車2台で現地集合とか、田舎組4名は、社イオンで乗り合わせて、予定通りスタートです。少し迷いながらも、集合地大磯登山口に10時過ぎ2台はうまく到着しました。

大船山（653m）は、独立峰で山頂には、祠があり、「神々をお迎えするための石を組んで作った磐境」の跡が残っているとか。

リーダーから「今日は快晴山行日和、コースはショートです。コンパスや地形図で確認しながらゆっくり登りましょう。」兵庫50山コピーや地図をもらい説明を受ける。

登山口で各々地図にコンパスをあてて「こっち→」と分岐ごとに道標があり確認できました。急な登りを少し歩くと山頂に着く。ちょうど12



青山

時前、日陰をさがして9名は円に座り込み楽しいランチタイム。

北方角は樹木が繁っていて、四月に登った白髪山は確認できませんでしたが、地図を広げて、山の形や方角で山名や村そして六甲連山やな一と言ひ合いながら、一時間余りを楽しみました。

帰路、大舟寺に寄ってくださいました。かや葺き屋根の寺、樹齢350年余り、根回り7、6mの大かやの木、手入れの行き届いたそれはそれは荘厳さを感じさせてくれる寺でした。山岳仏教の盛んな頃の名残りを感しました。いつもはついて行くのが精一杯でしたが、今日は、足も心も満足した山行でした。リーダー、メンバーに感謝しつつ、我が家の門から乗せていただいた尾内さん、運転有難うございました。

氷ノ山

日 時； 5月17日（金）～18日（土）

参加者； L砂川（延） SL佐々木 有本 上川 大谷 北口 田中（美） 田中（由） 田羅間（易） 苦瓜 峯山 村上（敬） 多木 田羅間（勤）

行動記録：5月17日（金）JR宝殿駅 8:40～氷ノ山国際スキー場ロッジ前 11:05（11:20）～慰霊碑 12:10～氷ノ山国際スキー場ロッジ前 12:50（昼食 13:25 発）～大段ヶ平 13:55～大屋避難小屋 14:35～神大ヒュッテ 15:00

5月18日（土）神大ヒュッテ 5:00～氷ノ山山頂上 5:35（6:05）～神大ヒュッテ 6:35（朝食）大屋避難小屋 9:15（10:00 発）～大段ヶ平 10:30～天女の湯 11:45（昼食、入浴）13:00～高中そば 13:30（14:10 発）～JR宝殿駅 16:00

★ 氷ノ山タケノコ狩り

指折り数えてむかえた氷ノ山タケノコ狩りの日、お天気に恵まれ砂川会長の運転するバスに乗り車窓からこいのぼりを眺めながら一路関宮へ。

途中スーパー関の宮で食材を調達し、国際スキー場前でバスを降り、慰霊碑参拝の為、急なスロープを上り谷へ下り、道なき道を歩き、川を飛び越え、慰霊碑で1997年1月26日雪崩の犠牲になった5名の方のご冥福をお祈りしました。帰りはスキー場脇で急遽ワラビ取りが始まり、滑りそうになるのをこらえながら楽しみました。少しバスで移動し、眩しいような新緑のなかで、こちよい風を受けながら昼食を取りました。

対向車が来るとヒヤヒヤするような、曲がりくねった細い道を上手に運転されて、大段々平登山口に到着。登山道は根曲がり竹の群生地、タケノコ(すずこ)が少し頭を出しかけていて、「まだ少し早いかな」のつぶやきを聞きながら登

って行きました。

神大ヒュッテでリュックを置いて、早速すずこ狩りに出発。この時は小屋から上へ向かって行きましたが、あまり採れませんでしたし



峯山 明美

た。4時ごろには神大ヒュッテに戻り夕食の支度をしていると、神大の井上達夫先生が食材を持って「一緒にさせて下さい」と来られました。薪ストーブですずこを焼きながらワイワイガヤガヤ。熱い味噌鍋が冷えてきた小屋の中と体を温めてくれます。

女性陣だけ2階で8時半には就寝、4時起床5時ストレッチをして山頂をめざし出発、千本杉までくると残雪があちこちに。そこからはすぐに1509.6m山頂避難小屋到着。この日も朝からよいお天気で見晴らしも良く最高の気分でした。

以前きた時にはなかったバイオの立派なトイレがあり、登山者には有難い事です。朝食は夕食の味噌鍋の残りで雑炊が出来上がり、これがまた良い味になりきれいに平らげました。昨日のわらびも薪ストーブの灰でアクが抜けおいしい和え物に。片づけと掃除が済むとお世話になった神大ヒュッテを後に

して下りながらすずこ狩りを、袋がだんだん重くなっていくのが楽しくてやめられません。帰路、とがやま温泉天女の湯で汗を流し養父市高中でおいしいざるそばを食べて4時頃には宝殿駅へ。あっと言う間の楽しい2日間でした。

六甲ガーデンテラス

日 時：5月23日(木)

参加者：L砂川(延)SL野村 西口 狩集 切貫 瀬尾 多木 田中(美) 田羅間(勤) 村上(敬) 田羅間(易) 開 水上 村上(節) 辻元 苦瓜 三木(勉)

行動記録：阪急御影9:10～西谷公園10:00(10:10発)～寒天橋10:18～ベンチ11:12(11:23発)～ガーデンテラス12:20(14:15発)～ケーブル山上駅14:50(15:00発)～ケーブル山下駅15:10～阪急六甲駅15:30

★ ガーデンテラスでジンギスカン

阪急御影駅山側改札口に午前9時集合。Lから、5月入会の辻元さんの紹介があった。足立さんは体調不良のため不参加。駅山側の小広場にて瀬尾さんのリードで入念にスト

村上(節)

レッチを済ませ、天狗岩南尾根ルートを女性11名男性6名のパーティでガーデンテラスを目指すのだが、「住宅街でよく道に迷う」ということで、寒天橋までの街ガイドを任せ

られた。色々なルートがあるが、今回は多数なので安全面を考慮して先ず車道からは離れる。そして、目印となるポイントがしっかりインプット出来、季節的に木々の新緑が楽しめるコースを選んでみた。

御影駅浜側から線路沿いを東に進み**住吉中学校への踏み切り**を北に進むと駅から徒歩15分程の**水路脇に水車**がある。住吉川流域は、江戸時代から急流を活かして油絞りや製粉、酒造りのための精米に利用した水車小屋が多く立ち並んでいたが、その水車をしのび保存されている。さらに北へと5～6分進むと**白鶴美術館**に突き当たる。右側は車道のため左手の急勾配の坂を目印の一つである**忠魂碑**を目標に2～3分登る。ここで一本立てて息を整えたら住宅街を5～6分登り詰めるとバス通りになる。左手に**神戸大学の学生寮と赤塚山のバス停**があるが**其方へは行かず**、右側の歩道を2～3分下ると**赤塚橋に出るが橋は渡らず**、左手前の**朝日新聞集配所**の前を北へ進む。大月地獄谷と西山谷から流れてくる沢の音を右手に聞きながら、さらに5～6分進むと**住吉浄水場**に出る。ここからは静かな住宅街を北へ登り詰めたとこに車道があり右折して1～2分進むと**渦森橋**。橋を渡った右手が**西谷公園**。市バス31、38系統の**渦森橋バス停**となっている。因みにここまでバスを利用すると街歩きの1時間はカット出来、東方面は五助堰堤を起点に五助山、西おたふく山、本庄橋から七曲を経て最高峰、東おたふく山などのハイキングコースがあり、西方面は天狗岩南尾根や寒天山道、油コブシからのコースがある。

六甲山は人々が暮らす住宅街から、即、登山道が始まるのが特徴だが、熟達者のみが立ち入ることができる谷も住宅街から始まっている。本日のコース“天狗岩南尾根”の西側には西山谷、東側には大月地獄谷、さらにその東には五助谷、水晶谷があり、住吉川へと流れは合流し、住吉川は神戸では一番水量の豊富な清流である。近頃住吉川に“天然のあゆ”が復活してきている。また、西山谷下流の千丈谷堰堤では、ホタルが乱舞する光景

も間近い。

西谷公園で水分補給や温度調整の後、登山口を目指し出発。住宅街を抜けると寒天橋に到着。段差の大きい階段をひたすら登って、登って…。3週間前に歩いた際、三つ葉つじがピンクのトンネルで迎えてくれたが、今回は新緑のアーチと可憐な更紗ドウダンがいざなってくれた。ウグイスがさえずり、ヤマガラが「チャチャピー、チャチャピー」と呼んでいる。

西谷公園を出発して約1時間、若葉薫る六甲の尾根を夫々の想いで休憩地点まで黙々と登って行った。休憩の後はいつものように明るい会話が響き、涼風に癒され、木立の切れ間から広がる大阪湾の大展望に歓声をあげながら天狗岩に到着した。

私は天狗岩の中ほどの窪みに自生している“イワカガミ”が花を咲かせているのを確認し、東天狗岩に群生している“知る人ぞ知るイワカガミたち”との出会いの季節到来に胸が躍った。

旧オリエンタルホテルからはサンライズドライブウェイをゆっくり歩き、華麗に咲く藤の紫と真っ

赤な山つつじ、そして木々の緑に染まりながらとても幸せな気分でジンギスカンパレスに到着。満面の笑みで山談義に花を咲かせ舌つつみをうつジンギスカンは、正に極上の味！

食後はガーデンパレスに移動し、紀泉の街並みも含めた大阪湾の大展望と、奏でる三木さんのオカリナの音色がひとつになり、豊かで素敵な刻がゆっくりと流れていった。感謝！

下山は予定通りケーブルカーとバスで、ということなので、私は勝手ながらLに許可を頂き、油コブシの分岐から寒天山道を経て渦森台の自宅に帰宅した。



初めての山歩き教室

座学・実技 アクア交流館・平荘湖一周から飯盛山

日 時：5月25日（土）

参加者：教習生19名

サポート：上田、大瀬、瀬尾、砂川（延）、須増、西口、峯山、山本（正）



「初めての山歩き教室」座学⑤の最終日で午前中は①遭難対策、夏山の医療、新特別基金と②シルバコンパスの使い方について講座

★ 登りたい山ベスト20に

初めての山歩き教室のスケジュール表にシルバコンパスの使い方があり、ぜひ行きたいと思い参加しました。

学習会は ゆっくり丁寧に説明して下さいだったので よくわかりました。外に出て平荘湖を一周しながらの実施学習は、先生が多いのが心強く楽しいウォーキングになりました。後は私の頭しだいかな。飯盛山の登山口からの急登はお天気で良かったと思いなが

を行いました。

午後は昼食後、平荘湖を一周しながら「シルバコンパスの使い方」の実技をレクチャーし、湖畔にある庵でいつものように休憩後、飯盛山を歩きました。シルバコンパスのレクチャーをしながら歩くため、かなり時間が取られた感はありましたが、ほぼ予定通り15時30分頃に無事終了しました。

峯山

ら ロープにしがみつきました。高御位山の百間岩のような岩場が続きメンバーの一人が休憩していると「止まらない 苦しくても歩き続けて下さい」と言う声が「ああ私も頑張らなくっちゃ」と思い歩きました。振り向けば平荘湖のエメラルドグリーンがとても美しく、初めての飯盛山は、私の中では又登りたい山ベスト20に入りました。

和気富士～神ノ上山縦走

日 時：5月26日（日）

参加者：La：山本（正） SLa：多木 井上 大石 香川 狩集 木村 武田

Lb：和田 SLb：中島 苦瓜 河合 藤田 村上(敬) 赤松

行動記録：宝殿 7:45～姫路西 S/A8:10～和気登山口 9:20～和気富士 9:40-9:50～
観音山 10:13～岩山 10:23～穂高山 11:05～潤沢峰 11:10～竜王山 11:25～
ジャンダルム手前 12:00（休憩）～奥の峰 12:14～神ノ上山 12:40（昼食）-13:15
～槍ヶ峰 13:50～下山（鶺鴒谷温泉） 14:30（入浴）-15:50～宝殿 18:00

★ 和気アルプス山行

和気アルプスは、岡山県和気郡和気町にある和気富士～神ノ上山（こうのうえやま）山系のことで170～370mの低山脈だとか。岡山県中央部生まれの私は、和気にも友達がおり以前から「私の家の辺を登山の格好をした人がよーけえ歩きようで！人気の山らしいわ！」と聞いていたので、機会があったら登ってみたいと思っていました。

当日、姫路バイパスの姫路西パーキングで姫路組5人はマイクロバスに乗せてもらいました。深緑の中の山陽道を走り、8時50分和気インターで降り、和気駅でトイレ休憩。駅のすぐ前の三角の小さい山が和気富士（城山）と聞く。かわいい（*^）v

登山口でストレッチをして、15名2班に分かれて赤い鳥居をくぐり、まずは和気富士に向けて登山を始めました。いいお天気で暑くなりそう（^_^）急斜面ではありますが、階段状に整備された道は木陰で、時折り風も吹き快適です。500mほどで山頂に到着。電波塔と曾根城跡の看板があり「曾根ってどこにでもあるんやな～」の声。そこから少し下ると尾根づたいになり展望もひらけ、眼下には、吉井川が流れ、のどかな風景です。観音山への道すがら、ブルーシートをかけた松明が保管されていた。8月16日、京都の大文字の送り火と同時に点火され「和」の文字になるらしい。

ずっと前を歩いていた20人ほどの団体さんに追いついたが、私たちは岩山で小休憩。しばらく行くとその団体さんが休憩をとっていたので、先に行かせてもらいました。ニ

香川

ンマリ！！（尾道からこられて、私たちより平均年齢は上のようでしたが・・・）それから見晴らしの良い岩場を通り分岐点にリュックを置いて竜王山にピストン。またも途中は、かなりきつい登り、やっと和気アルプスの最高峰、神ノ上山まで登り昼食です。適度な広さの山頂で、視界も良く北の方向には、うっすら那岐山も見ることができました。縦走道のポイントには、穂高山 涸沢峰 ジャンドアルム 槍ヶ峰と名前がつけられていて、さながら北アルプスの



ミニチュアのようなのです。いたる所に小さいイノシシの形の標識がありました。また和気アルプスは松茸山で、シーズンには入山禁止になるとリーダーが教えてくださいました。下りは鶴飼谷温泉を目指し、途中大きな岩場もありましたが、膝をまげ腰を低くして、なんとか無事下山できました。

広い露天風呂のある鶴飼谷温泉で汗を流し由香神社に参拝して帰路につきました。低山ですが、変化に富んだ岩場の多い縦走で、私にはキツかったけど、楽しい山行でした。

リーダーの山本さん 皆様お世話になりました。ありがとうございました。

これからは、7月の三の峰（初めての泊まり）に向けてトレーニング頑張ります。